

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



ぼくの話聞いて！

みんなの前で夏休みの出来事を、写真を見ながら話をしている。「川で泳いだんだ。お泊りもしたんだよ。」と、その時の出来事や気持ちを思い出しながら笑顔で話す子どもに、「川で泳いだの？楽しかったんだね。」と、保育者が言葉を添えながら話が進んでいく。話の後には「水は冷たかった？」と友達から質問があり、「うん。冷たくて気持ちよかったよ。」と、答えている姿があった。



保育者の援助と環境構成

夏休みの出来事として、家庭で写真を貼ったり絵を描いたり、コメントを添えたりしたもの（画用紙）を作ってもらっています。子どもがみんなの前で話すときに一緒に見せることで、話の内容が視覚的にも伝わりやすくなります。また、「どんな気持ちだった？」「楽しかったね。」など、保育者が言葉を添えたり共感したりすることで、自分の思いを言葉で伝えたり、友達からの質問に答えたりする姿も見られます。また、友達の話にも関心をもって聞き、言葉で伝え合う楽しさにもつながっていきます。



こんなのはどう？

7月は、夏祭りが行われる。5歳児は学級で話し合い、鳴子をやろうということになった。今日はグループに分かれて「きめのポーズ」を話しあった。一人の子が「手をこんなふうにして足は前に出すのを考えた！」と立ってポーズをとった。保育者は、「手を上にするポーズ考えたんだね、よく言えたね。」と伝えると、周りの友達もすかさず「いいんじゃない！」「カッコいいと思うよ。」と認める言葉をかけていた。それから次々と「僕も考えた！」「私も！」とポーズを見せ合う時間となった。



保育者の援助と環境構成

子どもたちが、きめのポーズを思い浮かべやすいように、鳴子を持って考えられるようにしました。音は鳴りますが、手や足を動かしながら考える姿が見られました。最初に考えたポーズを伝える子は、少し恥ずかしさもあったようですが、自分の言葉で伝えられたことを認めました。友達に刺激を受け、自分の動きもどのように考えたのかを言葉で伝えようとする姿を「よく話せたね。」「分かりやすかったよ。」と認めました。また少し声が小さい場合は、その子の状況にもよりますが、「もう少しだけ大きい声だと聞いている人が分かりやすいと思うけれどどうかな？」と、助言することもあります。



せみの抜け殻みつけたよ

園庭で遊んでいると、せみの抜け殻を見付けました。近くにいた友達に、「せみの抜け殻見つけたよ！」と話しかけると友達がやって来て、「僕にも触らせて！」と言い、自分の手のひらに乗せます。「ちょっと固いね。」「足がギザギザしている。」「本当だ！」と見たり触ったりして気が付いたことを、次々に言葉で表していました。

自然と触れ合いながら、互いの言葉が刺激となって、会話が弾んでいった一場面でした。

